

# 2016年度 自己点検・評価【商学部】

C票

## <目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2017年2月23日

責任者	商学部長	作成部局	商学部
-----	------	------	-----

### 2021年度に向けた教育研究目標

**【A票：教育研究目標1】**

(タイトル)  
高度な能力を有するビジネスパーソンの養成

(狙い内容)  
高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

より一層専門的な知識と総合的教養を身につけた学生を輩出するため、入学時における学力を担保し、併せてカリキュラムの整備を進める。

#### <変更時記入欄>

より一層専門的な知識と総合的教養を身につけた学生を輩出するため、一般入試以外の入試において多様で意欲を持った学生をより多く獲得するとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムの整備を進める。

#### <変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

大学が全体として目指している方向性を実現するため、商学部の目標において、一般入試以外の入試において多様で意欲を持った学生をより多く獲得するとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムを整備し、ハンズオン科目への参加学生を増加させることを明確にした。

#### 2. 達成度評価

評価指標	出願資格を見直し、カリキュラムを一部改編する。	評価尺度	A：見直し・改編が完了している。 B：見直し・改編の作業が行われている。 C：見直し・改編について議論がなされている。 D：見直し・改編に着手していない。	変更有無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	<変更時記入欄> 一般入試以外の入試を見直すとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムを改編する。		<変更時記入欄> A： B： C： D：	

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		C	C	C	C	B	B	A	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 執行部会にて検討のみ		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 下記参照					

#### 【2016年度の進捗状況について】 ←

学部執行部において、「推薦依頼校の見直し基準」の見直しおよびハンズオン科目のカリキュラムの整備について議論を開始した。

#### <変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

大学の全体的な方向性を実現するため、商学部の目標において、一般入試以外の入試において多様で意欲を持った学生をより多く獲得するとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムを整備し、ハンズオン科目への参加学生を増加させるため。

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → はい  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由：  
②今後必要な取組み：

#### <評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・入試の見直しと、ハンズオン科目に関するカリキュラム改編は、順調に進展しています。(B)
- ・一般入試以外の入試において多様で意欲を持った学生をより多く獲得するとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムを整備し、ハンズオン科目への参加学生を増加させるというのは高く評価できます。またゆっくりとはありますが進展しているようです。(C)
- ・順調に推移しており、評価できます。(F)
- ・順調に進展しています。(G)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)  
国際化時代・情報化時代におけるグローバル人材の育成

(狙い内容)  
言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

学部における語学教育・専門教育を踏まえ、海外の高等教育機関(主に本学協定校)において、語学能力を生かしたビジネスコミュニケーションや専門能力を活用したローカルビジネス研究など、ビジネス教育プログラムを一層充実・発展させ、グローバルマインドを向上させる。  
また、国際化時代に対応できる適切な英語コミュニケーションスキルを備えた人材を育成するため、学生個々の学力水準に応じたきめ細かな英語教育システムを整備する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	習熟度別クラス編成が進み、その効果を受けて、海外の高等教育機関での単位取得数が増える。	評価尺度	A: 下記Aの尺度を共に満たしている。 B: 下記Bの尺度を共に満たしている。 C: 2015年度に比べて変化がみられる。 D: 2015年度のクラス数・単位数から変化がない。	変更有無 有・無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	D	C	C	B	B	A	有・無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D <実績> C	実績		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> ・海外短期研修実施 ・英語習熟度別編成(1年生のみ)実施	実績		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 下記参照				

**【2016年度の進捗状況について】**

英語習熟度別編成については、1年生科目(英語ⅠⅡリーディング)および2年生科目(英語ⅢⅣリーディング)において、上中下の3レベルでの編成を実施。海外研修プログラムについては、2015年度に引き続き2016年度も夏と春(予定)に実施。また2017年度から新たな研修プログラムを実施するよう、執行部会にて検討を進めている。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・グローバル人材育成の取組みは、順調に進展しています。(B)
- ・英語習熟度別編成、および海外研修プログラムなど、商学部の特徴を踏まえた意欲的な内容の目標設定であると考えます。(C)
- ・順調に推移しており、大変評価できます。(F)
- ・改善が進んでいます。(G)